

【考え・基礎知識】

除法と乗法や減法との関係について理解することができる。

【つながり】

除法の意味について理解し、日常生活の中にある事象と関連付けて考え、除法を用いることができる。

【応用・ひろがり】

日常の事象について見通しをもち筋道立てて考え、表現することで問題を解決することができる。

- ◇ 学年 第3学年
- ◇ 単元名 余りのある割り算
- ◇ 単元の目標 除法の意味について理解し、それを用いることができるようにする。
- ◇ 単元の計画 (全9時間)

学習活動	時数	指導上の留意事項
<p>課題の設定 (1)</p> <p>○校長先生から学習発表会の準備に必要な物の数(劇の小道具, 発表用のひな壇, 来賓の座席)をどのように決めたらよいかについての依頼を受け, その課題の解決方法を考えることで, 学習に対するの関心をもつ。</p> <p>・課題を解決するために, これまでに学習したことが使えないかを検討する。</p> <p><解決方法を考える> ※()は時間数</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>【劇の小道具】(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇で必要なりんごを, 新聞紙を丸めて作る。試しに先生が13個作ってみた。1人3個ずつ必要だとすると, 今何人分できているか考える。(包含除) ・割り算の問題で余りがある問題もあることを知る。 </div> <div style="width: 45%;"> <p>【来賓の座席】(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が見に来られるので席を用意する。□人来られるとすると, 椅子を1列に4脚ずつ並べたとき, 何列できて, 何人余るか考える。 ・地域の方が29人来られると分かったので, 椅子の前に3人掛けの机をいくつ準備すればよいか考える。(余りの切り上げの判断) ・机の上に折り紙で飾りを作ろうと考えているグループがいる。3人のグループで16枚折り紙があるとき, 何枚ずつあげたらけんかにならないか考える。(等分除) ・余りのある割り算の答えが正しいかを確かめる方法を考え, これまでの計算が正しいことを確かめる。 </div> </div> <p>→</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>【発表用のひな壇】(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分達3年生22人の発表時の並び方について, 1つのひな壇に8人まで乗れるとき, 3年生22人が並ぶために必要なひな壇の数を考える。 </div> </div>	<p>1</p> <p>6</p>	<p>★校長先生から依頼を受けるとい設定で、「やってみよう」、「考えてみよう」と思わせ、児童の意欲を高める。内容も総合的な学習の時間や日常生活の中にある児童にとって身近な事象と関連付けるなど、算数の授業以外にも数学的な考え方ができるということを実感させることも大切である。</p> <p>○人数を限定しないことで、考えられるさまざまな場面を取り上げ、余りと割る数の関係について理解させる。</p> <p>★実際の場面設定で考えさせることが大切である。しかし、それ以外の日常生活の場面でも余りのある割り算で問題を解決することがあるため、教科書等の問題を通して、これまでの学習を整理し、確実な計算の仕方と各場面での適切な判断の仕方を習得させることが大切である。</p> <p>○余りを求めることができるだけでなく、日常の場面に即して余りをどう扱うかを考えさせることで理解を深めさせる。</p>
<p>まとめ・表現 (1)</p> <p>○自分たちで出した結論を校長先生に説明する。</p> <p>・校長先生から依頼を受けた学習発表会の準備に必要な物の数について校長先生に説明し、評価してもらう。</p>	<p>1</p>	<p>○校長先生に説明し、評価を受けることで、これまで学習してきたことの価値を実感させる。</p>
<p>新たな課題の設定</p> <p>○校長先生から、新たな依頼を受ける。</p> <p>・これまでの学習の成果を生かして、下級生(1, 2年生)の群読の発表時の並び方について考えてほしい。</p> <p>○1, 2年生の群読の発表時の並び方について考える。</p> <p>・1, 2年生合計37人がひな壇に並ぶ。1, 2年生は1つのひな壇に9人まで乗れるとき、ひな壇をいくつ用意したらよいか考える。</p> <p>・一人ぼっちにしないためにはどのような並び方をすればよいか考え、自分たちなりの結論を出す。</p>	<p>1</p>	<p>★児童は下級生の並び方について考えたとき、単純な計算では1人余ることから「かわいそう。」だと感じ、1列の人数を減らすことで最適な人数を考えられることに気付く。単純に計算するだけではうまくいかないことがあるのだと実感を持って理解させることで、目的に応じて学習内容を活用する必要性を感じさせることが大切である。</p>